

# 日本聖公会 川越基督教会

## 資料委員会だより

ARCHIVES NEWS

第3号

(2016年9月)

発行日 2016年9月7日(水)

川越基督教会資料保管委員会

### 「若き伝道師、伴愛也」

4月10日の礼拝に、伴(ばん)先生由来の方々が出席されました。2月の史談会(管区事務所)で伴先生の姪子さんである吉田百合子さんとの交流が始まり、ご親戚の稲葉さん、山野さん、史談会メンバーの岡野さんと一緒に来てくださったのです。伴愛也(よしや)先生は昭和9(1934)年から15年にかけて伝道師として川越へ赴任、才2次大戦となる昭和16(1941)年からは、父である君保(きみやす)司祭に代わって守都宮聖ヨハネ教会を司牧されました。当日はご一行に教会の古い資料を見ていただいた後、ゆかりの地をご案内。独身の頃の伴先生が敷地内に住んでおられた、という末広町の松村祐二さん・恵美子さん宅へおじゃまし、古写真を見ながら昔話に花を咲かせました。戦争直前の教会は、婦人宣教師ボイド、司祭奥村亮、補佐 稲垣陽一郎、そして若き伝道師 伴愛也 が居並ぶ最も充実していた時代であったようです。伴先生の長女である稲葉さんいわく、「父は川越時代が一番楽しかったと話していました」とのこと。守都宮の教会は君保司祭、愛也司祭によって愛されてきました。風格ある大谷石(おおやいし)の礼拝堂をいつか訪れてみたいと思いました。

当教会の信徒 松本博一さんは、戦後守都宮で伴愛也司祭から洗礼を受けられました。司祭には、川越出身ということもあってとても可愛がってもらったのだそうです(詳しい内容は2015年6月7日の聞き取りで録音されています)。

### 「婦人伝道補助会の資料のこと」

6月29日(水)、北関東教区婦人会に教会の資料を提供(スキャンの後パソコンで送付)しました。来年100号となる機関誌「いずみ」の企画で、教区婦人会の歴史を振り返るため資料を探しているということでしたので、いくつかのものを文書部の秋葉みどりさんへお送りしました。偶然にも資料は4月に外の物置から移動したダンボールの中にあつたものです。「婦人伝道補助会」の名で一箱、大正6(1917)年～昭和60(1985)年頃までの資料がぎっしりと詰まっています。当教会の話になりますが、宣教師のアアタン女史といった方々の取り組みもあり、川越では頼もしい活動が行われていたようです。今後の整理作業により、詳しい内容も明らかになると思われます。

## 「委員会の務め ～長畑さんの来訪から～」

8月3日(水)に長畑さんが委員会へ資料を探しに来られました。明治期の聖歌に関する記述、ということで古文書にあたりましたが、まだ資料目録も入力途中、解読も進んでいないという状況で探るには困難をきわめました。しかしその研究テーマに興味を覚えた一同は、そのような活動のためにも役立てるようになりたいと気持ちをひきしめたのでした。長畑さんは聖公会神学院の初代校長、今井孝道(むさみち)の子孫にあたられます。幼少期はご家族で当教会へ通われ、日曜学校のサーバーや奉仕活動など、松平司祭の元で歩まれた少年時代を懐かしく振り返っておられました。今ではその頃のこともアーカイブズですね。また足を運んでみてください。

## 「資料目録のための夏期集中作業」

8月15、16日に目録作成のための集中作業を行いました。通常は出席できないブリュンガー・クリスさんや榎己さんを含め10～12名の参加により、入力・スキニングを中心に手がけ、今後の見直しについても話し合いが持たれました。途中、38年前に制作されたビデオ「テレビで見る川越宣教100年のあゆみ」(川越キリスト教会宣教100周年実行委員会、昭和53(1978)年)の上映会もあり、当時の活気が伝わってきました。目録作成の作業は大変進展いたしました。参加した皆さん、お疲れ様でした。

## 「古文書の夏」

目録のためにスキャンした資料は、パソコン上での閲覧やプリントアウトができるようになります。これにより古い資料そのものを何度も出し入れすることなく、解読の作業をすすめることができるので、8月中の水曜日は目録の作業が休みなので、代わりに古文書を読むための勉強会が行われました。その流れで、9月半ばには埼玉県立文書館での古文書講習会への参加を予定しています。

古文書は近年静かなブームを迎えており、博物館などの講座も申し込みの倍率が高く、簡単には受講することができません。世の中や社会の行き先が見えにくくなっている今、自分たちの足元を見直す動きが生じているのでしょうか。古記録を折に触れてその時代の視点で読んでいくことを私たちは大切にしています。自分たちの未来を人まかせにせず、考え、歩んでいきたいと思っています。

\* \* \* \* \*

今回の資料委員会報告は、ドナルド・バーリさんに寄稿していただきました。川越基督教会に関する歴史研究や資料保管委員会の歩みについて、わかりやすく書かれています。ドナルドさんは7月30日発行の「川越の文化財」第123号にも「川越大火はアメリカまで報道された」の題で執筆されています。市内の市役所文課財保護課などで配布、図書館にも(配架)ありますのでどうぞご覧ください。

## 川越キリスト教会の歴史を引き続き市民へ紹介することについて

川越キリスト教会の歴史を紹介する2つの貴重な本は国立国会図書館や埼玉県立熊谷図書館、川越市立図書館でも所蔵されています。それは松平惟太郎司祭執筆の「蔦の教会—川越基督教会百年史」(1980年毎日新聞社刊)と川越基督教会130年史編纂委員会編「川越基督教会130年史」(2008年川越基督教会発行)です。同書は川越キリスト教会の歴史を理解しやすいように学ぶことができる物です。他に、松村恒夫氏も川越ペンクラブの季刊誌「武蔵野ペン」で初雁幼稚園の園児の頃の思い出話を載せ、松村祐二氏も川越市文化財保護協会の機関誌「川越の文化財」で、煉瓦の礼拝堂について書くなど、信徒が個人的に教会関係の文章を公開することもあるようです。本であっても記事や随筆などであっても、自分の体験を記録したり、歴史資料を生かしたりすることは重要な事です。

私も川越キリスト教会の歴史を紹介する機会は4年ほど前に初めてありました。2012年秋、川越市制90周年記念事業の1つとして、「川越の海を越えた交流」という簡単なパンフレットを川越・セーレム親善協会が編集し、発行しました。「川越の海を越えた交流」という題にした理由は、欧米出身の私が長年川越で暮らしてみて、19世紀後半より欧米から川越を訪ねたり、住民になったりした先輩たちから学ぶべきことが多くある、と深く感じたからです。また、川越の人たちも海を越えた先輩たちから学ぶべきこともあるのではないかと思います。

パンフレットで紹介した欧米人の大半は川越キリスト教会で活躍した5人の婦人宣教師です。発行後、川越の国際交流史の研究を続け、川越基督教会資料保管委員会の山本元氏などの協力を得て、教会歴史資料を本格的に研究するようになりました。「蔦の教会—川越基督教会百年史」や「川越基督教会130年史」などのもとなった歴史資料がどのくらい魅力的なのか、ということもわかるようになりました。

但し昨年まで、良い歴史資料が多くあっても正確な目録はまだできておらず、利用するのに困難な状態がありました。幸いに、昨年のお盆のころより資料委員会の働きにより歴史資料の整理が本格的に始まり、少しずつ利用しやすくなってきているところです。

教会の欧米婦人宣教師や田井正一司祭なども含め、川越の国際交流に関わった人物の活動などを社会に紹介する事もあります。例えば2年ほど前、「明治期における田井司祭と宣教師の働き」の題名で川越キリスト教会の信徒を中心に講演する機会がありました。他に、川越の国際交流史をテーマにして公民館などでも講演が予定されています。

来る11月、川越市の南公民館では「川越キリスト教会と田井正一」の講演が与えられました。準備のために「100年史」や「130年史」、教会の保存資料なども利用しています。但し、田井司祭など関係がある古い資料は毛筆で読むのに苦労します。例えば、埼玉県立文書館所蔵の明治後半に田井司

祭が書いた初雁幼稚園前身の設立申請資料や、私立川越女学校設立申請資料などがあります。そのため今年の8月、委員会は古文書を解読する会を設けましたし、9月には同館主催の古文書解読講習会にも参加を予定しています。

資料委員の得意なことは様々です。山本委員長は資料がもっと教会外でも知られるようにとの夢があり、私たち委員へもその気持ちが伝達されています。自分の読んでいる教会内外の資料について興味深い話もしてくれます。また、資料保存の流れの全体を把握し、良い組織を設置する才能がある委員、教会の資料をデジタル化することやインターネットで整理する才能がある委員、教会以外の資料を集めることのできる委員、古文書の解読ができる委員、英語の資料を日本語に翻訳できる委員、などもあります。勝手な希望ですが、委員の人たちの力を続いて借りて、良い資料による興味深い楽しい語りを南公民館の講演会で紹介したいと思っています。

(ドウエル・ペーリ記)

2016年9月5日